

医師・薬剤師への情報提供レター送付による ポリファーマシー患者の処方内容の改善効果の検討

ポリファーマシー（多剤併用）は、臨床的に必要とされている量以上に多くの薬剤が処方されている状態であり、潜在的に不適切な処方の頻度を増やし、薬物有害事象や服薬過誤、服薬アドヒアランスの低下など様々な問題を引き起こす。生活習慣病などの慢性疾患は年齢とともに、ある個人に複数の疾患が併存している状態（multimorbidity）となっていく。その結果、疾患ごとにガイドラインに準拠して治療薬が追加され、さらに複数科、複数医療機関への受診機会が増え、ポリファーマシーにつながっていくと考えられる。国は医師・薬剤師を対象としたガイドラインの作成や、外来患者に対する減薬を評価する診療報酬改定で対策を進めている。

ポリファーマシーへの対策として、患者の治療情報を定期的に入手できる立場の保険者（保険組合）に注目している。今回、地域医薬システム学講座と企業健康保険組合とが実施している医師・薬剤師への情報提供レター送付事業に携わる機会をいただいた。課題研究では事業による処方内容の変化について解析する予定であり、抄読会では事業の詳細と進捗状況について報告する。

【参考文献（一部）】

- Masnoon N, Shakib S, Kalisch-Ellett L, Caughey GE. What is polypharmacy? A systematic review of definitions. *BMC Geriatr.* 2017;17(1):1–10.
- Osterberg L, Blaschke T. Adherence to medication. *N Engl J Med.* 2005;353(5):487–97.
- Izumi S, Manabu A. Polypharmacy and adverse drug reactions in Japanese elderly taking antihypertensives : a retrospective database study. *Drug Healthc Patient Saf.* 2013;143–50.
- 厚生労働省. 高齢者の医薬品適正使用の指針. 2018.